



大森六中だより

令和5年 2月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

17の目標の現状

2015年に15年後の世界が持続可能な社会となるために、17の目標を国連総会で採択したSDGs。それぞれの現状について、国連WFPの理事を務める本田亮さんが著した「ムズカシそうなSDGsのことがひと目でやさしくわかる本」から抜粋して紹介します。

1 貧困をなくそう

地球上には、国際貧困ラインである1日1.9ドル（約200円）以下で暮らすとても貧しい人たちが7億人以上もいる。世界では約8億人の人がスラムに住んでいる。食料不足や貧困が、さらなる紛争やテロを生みきっかけをつくってしまう。

2 飢餓をゼロに

世界の5歳未満の子どものうち、21%が日常的な栄養失調による発育障害に苦しんでいる。2017年には貧困により15歳以下の子どもが毎日1万7000人も亡くなっている。世界の飢餓人口はおよそ7億人。一方で、豊かな国では太りすぎが悩みの種。地球に食料が足りないのではない。バランスよく配分されていないだけなのだ。

3 健康と福祉を

世界全体の病による死亡者の半数以上は感染症が占めている。きちんとした医療を受けられない人は、地球上に35億人もいる。

4 質の高い教育をみんなに

世界では5歳から17歳の子どもの5人に1人が、学校に通えていない。そして7億5000万人の成人が読み書きできない。

5 ジェンダー平等を実現しよう

2018年時点で小学校に通っていない子どもは世界全体で5900万人いて、その54%が女子であり、その半数以上がサハラ以南のアフリカの子どもたちだという。日本はジェンダー平等の評価は極めて低く、2019年の総務省の調査結果によると、女性は男性の年収の74%しか稼げていないという。女性のリーダーシップの機会も少なく、国会議員における女性の比率は193ヶ国中で166位(2022年)という低さだ。

6 安全な水とトイレを世界中に

2017年の時点で、安全に管理された水を使うことができない人は21億人。毎日800人の乳幼児が汚れた水を原因とする下痢症で死んでいる。42億人の人が、安全に管理されたトイレを使えていない。野外で排泄している人の数は8億9200万人。衛生的なトイレがないことで、下痢などの疾患となり命を落とす人も多い。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに：世界では8億人以上の人たちが電気のない生活をしている。再生可能エネルギーが誰でも使えるようになれば、温暖化にブレーキをかけることができ、人々の生活ももっと向上するだろう。一方、日本はというと、総発電量の中で、水力、太陽光、風力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーが占める割合はすべて合わせても16%ほど。

残りのゴールについては次回に。六中では今、気候変動、食品ロス、平和への具体的なアクションを生徒が考えています。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

寒中洗足池清掃

2月2日朝の洗足池清掃は300学級の当番でした。ここ最近の寒波の影響でこの日も北風が吹く寒い朝でした。

3年生は受験シーズンに入り、日々緊張している最中であるにもかかわらず、さわやかな笑顔をこちらに向けてピースサインを送ってくれた3年生に思わず、温かい気持ちになりました。



東京は、乾燥注意報が続き、洗足池の水位も下がっていますが、冬鳥達は元気に気持ちよさそうに水面をすいすい泳いでいます。桜の木も確実に花芽を膨らませ春の準備をしています。コロナの情報も東京では感染者が減っている報告が上がっています。この春こそ平素の穏やかな季節を迎えることができることを祈るばかりです

シビック・アクション総括

今年度のシビック・アクションの授業が2月6日で終了しました。最後の授業では、今年の学びをグループごとにまとめ、発表します。3つのテーマ「気候変動問題」「食ロス問題」「平和問題」を取り上げ、専門家の話を聞き、多くの人を巻き込んでアクションを提案することが目的でした

が、学びは深まったようでしたが、アクションにつなげる工夫が難しく、苦戦したようでした。以下、生徒の振り返りから抜粋しました。

「食ロスや気候変動はSDGsの観点から見ても話題に上がることの多い観点なので、ある程度の知識は持っていたものの、平和の問題に関する知識はあまり持っていなかったため、今回今までの生活で知ることのなかったことについて知ることができて良かったと思う。」

「私はあまり強く気候変動の取り組みについて向き合おうと思ったことがありませんでしたが、この学習を通してどんな行動をすれば人が少しでも目を向けてくれるのかを考えるのが意外と大変だということに気づきました。」

「自分の考えたことのないテーマについて知ることが出来たのではないかと思います。私達が知らないところでも起こってしまっている。今回の3つの問題は今後も大きなテーマとなっていくと思うので、もっと探求し沢山の人の人に発信していけるようにしたいです。」



小中一貫教育の日～研究授業～

1月18日（水）小中一貫教育の研究授業が行われました。

英語科部門、社会科部門、保健体育科部門の3部門の会場は六中でした。代表の3クラスの生徒たちは皆、いつも通りに活発に授業を受け、参観なされた小学校の先生方から、卒業して1年後、2年後の頼もしく成長した姿を見られて良かった、先生の話をしっかり聞き楽しそうに活動している姿やクラスメイトとの意見交換で考えを深めている姿に感動したなどの感想が多く寄せられました。

キャリア教育部門は、3年ぶりの開催となりました。例年、六中を会場として、六中の1・2年の代表生徒と小学校6年の全員で「職業」について意見交換をしてきました。この研究授業は小学生にとって六中生活の第一歩となるともいえる行事の一つでもあり、代々引き継がれてきたものです。残念ながら、新型コロナウイルスの感染防止のためにいったんは途絶えましたが、去年は映像を各小学校に贈り、今年度は六中生が各小学校に出向くという形で復活することができました。いずれも小学6年生での合同授業の経験のない、2年生が司会者、1年生がその補佐を務めました。6年生は職業調べ、1年生は職業インタビュー、2年生は職場体験を通して学んだことを発表し、働く上で大切なことについて話し合いました。各小学校での全体会では「コミュニケーション能力」「思いやり」「全力で責任を果たす」「つながり」「やりがい」「夢」「楽しむ気持ち」「誰かの笑顔のために」などたくさんのキーワードが発表されました。将来の進路選択に向けて貴重な時間となりましたね。小学校の先生方からも「中学生がよくまとめてくれました。場を回す力、話を振る力、たった2年間であんなに成長するんですね。」「中学生のスライドが見やすかった。クイズを入れるなどの工夫も良かった。」「中学生の司会陣の雰囲気がとてもよく、普段は話せない子も話せていた。」「中学生がリーダーシップを取りしっかり話合いができた。」「小学6年生にとって、年の近い中学二年生の体験談は大変リアルで、大変いい学びになった。」などの感想をいただきました。



席書会

池上会館にて席書会が開催されました。

各学年代表者1名が参加しました。

どれも素敵な作品です。作品は校内に掲示しています。



参加生徒

1年 赤堀愛奈さん

2年 吉田薫子さん

3年 酒井瑠々さん

ものづくりフォーラム



技術・家庭科で制作された代表作品が、ものづくり教育学習フォーラムで展示されました。

技術科からは1年生のスマホスタンド、家庭科からは2年生のブックカバーが出品されました。

出品生徒

1年 加藤詩さん 佐久間愛実さん 松永龍弥さん

2年 富田そよ香さん 清水彩榮さん 高井律さん

吹奏楽部 新春アンサンブルコンサート



吹奏楽部の校内コンサートが開催されました。

「波を超えてはるかに」「新時代」「プリンセスメドレー」の3曲を披露してくれました。

会場の教室にはたくさんの観客が訪れ、大いに盛り上がりました。

残り1学期も元気で過ごせるよう、エネルギーをもらえたことと思います。